

月に吠えよ、萩原朔太郎展

Sakutaro Hagiwara: Howl at the moon
2022年10月1日 [土] ~2023年2月5日 [日]



画像0 メインビジュアル

広報に関するお問合せ：世田谷文学館学芸部 広報担当
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL: 03-5374-9111

PRESS RELEASE SETABUN

月に吠えよ、萩原朔太郎展

我々はもはや永久に孤独ではない

概要

光る地面に竹が生え、..... 竹、竹、竹が生え。（「竹」『月に吠える』より）

日本の近代詩を代表する詩人、萩原朔太郎。教科書などを通してその詩の鮮烈なイメージとリズムに出会い、衝撃を受けた人も多いことでしょう。世田谷は朔太郎が晩年を過ごした土地です。没後80年を記念して全国52館の施設で横断的に開催される「萩原朔太郎大全2022」の一環として、当館でもこの不世出の詩人に新たな光を当てます。

「人は一人一人では、いつも永久に、永久に、恐ろしい孤独である」（『月に吠える』序文より）と書いた朔太郎の詩は、世代や立場による分断が進み、気づけば一人一人が孤立を余儀なくされている現代の私たちに鋭く、強く迫ってきます。しかし朔太郎は続けて、人間同士に共通するものを発見するとき「我々はもはや永久に孤独ではない」とも書いています。生活のすべてを詩に捧げた朔太郎が、孤独の先に見たものとは—。書き遺された膨大な原稿やノートなどの資料や、朔太郎に触発された現代の作家たちによる作品を通して見ていきます。

【展覧会名】 月に吠えよ、萩原朔太郎展

【会 期】 2022年10月1日(土)～2023年2月5日(日)

ご来館の際は、事前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください

【会 場】 世田谷文学館 2階展示室

東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL 03(5374)9111 <https://www.setabun.or.jp/>

【開館時間】 10:00～18:00（展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで）

【料 金】 一般 900（720）円／65歳以上・大学・高校生 600（480）円／

中学生以下無料／障害者手帳をお持ちの方400（320）円（但、大学生以下は無料）

※（ ）内は団体割引と「せたがやアーツカード」割引料金

※10月7日（金）は65歳以上無料 ※11月1日（火）は萩原朔太郎生誕記念無料日

【休 館 日】 毎週月曜日（但、月曜が祝日の場合は開館し、翌平日に休館）・臨時休館期間

・年末年始（2022年12月29日～2023年1月3日）

【交通案内】 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分

小田急線「千歳船橋」駅より京王バス（千歳烏山駅行）利用、「芦花恒春園」下車徒歩5分

【主 催】 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館

【特別協力】 水と緑と詩のまち 前橋文学館

【助 成】 文化庁「令和4年度 地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」

【協 賛】 株式会社ウテナ、東邦ホールディングス株式会社

【協 力】 下北沢商店連合会

【後 援】 世田谷区、世田谷区教育委員会

グラフィックデザイン：大西隆介（direction Q）／メインヴィジュアル・イラスト：塩川いづみ／会場構成：DO.DO.

Sakutaro Hagiwara: Howl at the moon

Exhibition period: Oct.1 (Sat.) – Feb. 5 (Sun.)

Admission fee: General 900 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 600 yen,
Students (Junior High, Elementary School) free

Group Discount : Groups of 20+ visitors will receive a 20% discount on admission fee both collection and special exhibitions.
Disability certificate holders will be admitted at 50% the general rate

Visitor Information

Opening Hours: 10:00 am to 6:00 pm (last admission 5:30 pm)

Closures: Every Monday (Closed Tuesday when a national holiday falls on Monday) New Year holidays (Dec.29-Jan.3)

Access

5-minute walk from Roka-koen Station's South Exit (Keio Line)

5-minute walk from Roka Koshunen(take Keio Bus from Chitose-Funabashi Station [Odakyu Line] towards Chitose-karasuyama Station [Keio Line])

*The number of parking spots available for use is limited. Please use public transportation.

Setagaya Literary Museum

1-10-10 Minami Karasuyama, Setagaya-ku, Tokyo TEL 03-5374-9111 <https://www.setabun.or.jp/>

同時開催コレクション展「下北沢猫町散歩」10月1日（土）～2023年3月31日（金）

次回企画展／石黒亜矢子展（仮）2023年度開催予定

PRESS RELEASE SETABUN

月に吠えよ、萩原朔太郎展

我々はもはや永久に孤独ではない

プロフィール



画像1 舟越保武 無題[画稿 萩原朔太郎] (世田谷文学館蔵)



画像2 朔太郎肖像 (大正13年頃 写真提供：前橋文学館)



画像3 朔太郎肖像 (世田谷区代田の家の庭にて)



画像4 朔太郎肖像 (昭和15年)

萩原朔太郎
1886～1942
(明治19～昭和17) 年

詩人。群馬県生まれ。前橋中学在学中より「文庫」「明星」などに短歌を投稿。室生犀星の詩に感動して詩作に入り、北原白秋主宰の「朱鷺」に「みちゆき」ほか詩5編が掲載され詩壇デビュー。1917年、口語自由詩を確立した詩集『月に吠える』を刊行、近代詩に一時代を画した。他の著作に詩集『青猫』『純情小曲集』『氷島』、アフォリズム集『新らしき欲情』、詩論『詩の原理』、評論『日本への回帰』、短編小説『猫町』などがある。1931年に下北沢へ移住し、翌々年に自ら設計して建てた代田の家が終の棲家となった。



イベント情報

◎関連講演会を予定。詳細は決まり次第、当館HPにてお知らせいたします。

◎1階のフリースペースに「猫町ラビリンス」(参加無料)出現！短編小説『猫町』の世界観を小さなお子様でも楽しめるダンボール迷路です。(期間：12月17日[土]～会期中)

●感染症拡大防止のため、ご入館時にマスク着用と検温等のご協力をお願いしております。

●展覧会の会期および内容が急遽変更や中止になる場合があります。ご来館前に当館HPをご確認ください。

PRESS RELEASE SETABUN

月に吠えよ、萩原朔太郎展

我々はもはや永久に孤独ではない

みどころ

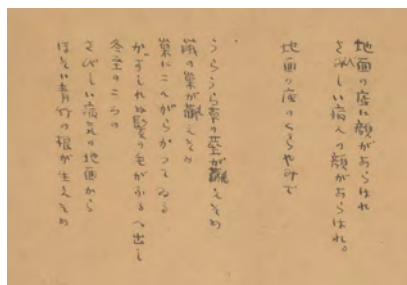
※出品資料は会期中、一部展示替えを行ないます

1 生み出される詩

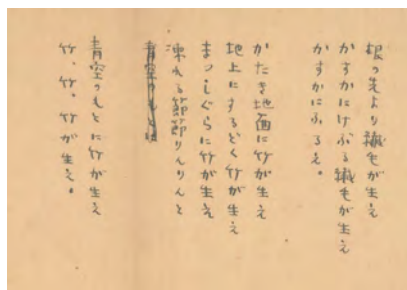
朔太郎の原稿やノートなどから、詩の創作過程に迫ります。



画像5 第一詩集『月に吠える』(1917年 世田谷文学館蔵)



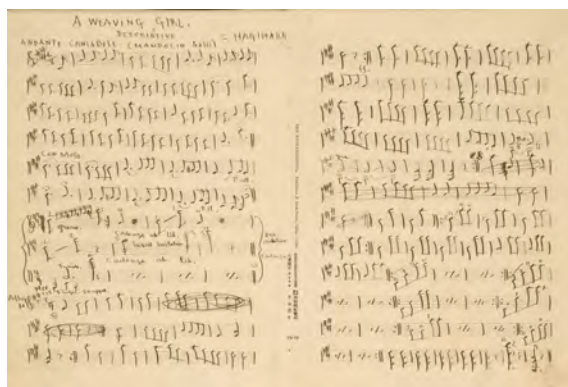
画像6 「地面の底の病気の顔」原稿(前橋文学館蔵)



画像7 「竹」原稿(前橋文学館蔵)

2 さまざまな表現

音楽や絵、デザイン、写真など朔太郎の多彩な表現を紹介します。



画像9 朔太郎作曲「機織る乙女」の自筆楽譜(前橋文学館蔵)



画像8 萩原栄次あて自筆水彩絵はがき
(1905年8月 世田谷文学館蔵)



画像10 朔太郎が自らデザインした椅子
(復元品 前橋文学館蔵)

3 描かれた詩

現代の美術・漫画家たちが描いた朔太郎作品や、肖像作品を展示します。



画像11 松本大洋《東京の青猫》(2021年)



画像12 金井田英津子《猫町》(1997年)



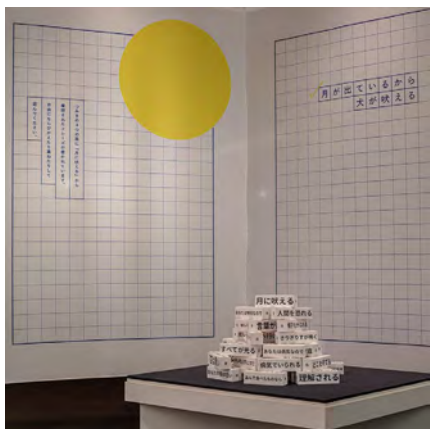
画像13 舟越保武《萩原朔太郎像》
(1955年 世田谷文学館蔵)



画像14 清家雪子『月に吠えらんねえ』
(2013～2019年 講談社刊)

4 詩を体感する

視覚的な会場デザイン、自分で詩を作る体験型インスタレーション、オートマタ(自動からくり人形)作品などを通して詩の世界を体感できます。



画像15 TOLTA (ヴァーバル・アート・ユニット)《月が出てから犬が吠える》(2022年 撮影：浅川敏)



画像16 ムットーニ《風船乗りの夢》
(2020年 前橋文学館蔵)

会場風景

本展示会場は、一冊の書物を読み進めるようにご覧いただけます。展示壁面は、折本状（繋ぎ合わせた紙を一定間隔で折りたたんでつくった蛇腹状の本）に設営され、随所に展示作品が組み込まれた構造になっています。



画像17
会場イメージ
一冊の本を巡るような会場
（会場設計：D0.DO.）



会場風景1 撮影：浅川敏



会場風景2 金井田恵津子コーナーの全景 撮影：浅川敏



会場風景3 撮影：浅川敏



会場風景4 松本大洋コーナーの全景 撮影：浅川敏



会場風景5 右 TOLTA《月が出ているから犬が吠える》
(2022年) 撮影：浅川敏



会場風景6 撮影：浅川敏



会場風景7 撮影：浅川敏



会場風景8 清家雪子コーナーの全景 撮影：浅川敏



会場風景9 ムットーニコーナーの全景 撮影：浅川敏



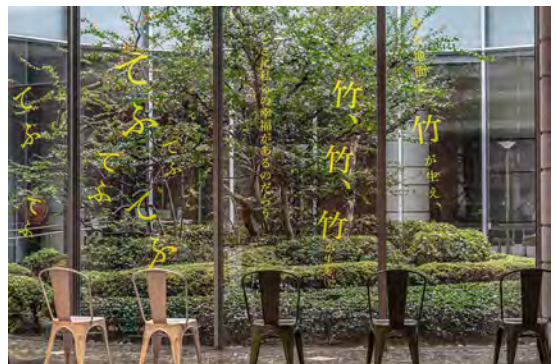
会場風景10 撮影：浅川敏



会場風景11 撮影：浅川敏



会場風景12 撮影：浅川敏



会場風景13 撮影：浅川敏

PRESS RELEASE SETABUN

月に吠えよ、萩原朔太郎展

広報用画像借用書

世田谷文学館学芸部 広報担当 行

[Eメール webmaster@setabun.net](mailto:webmaster@setabun.net)

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記利用条件をご確認のうえ、本紙データをEメールにてご提出ください。なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、校正紙をお送りいただきたく存じます。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

【広報用画像利用条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。また画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名：_____

媒体種別（○印記載）：新聞 ・ 雑誌 ・ フリーペーパー ・ テレビ ・ ラジオ ・ WEBサイト

情報配信予定日： _____ 年 _____ 月 _____ 日（○印記載 発売・配信・その他 _____）

御社名：_____

御担当者名：_____

御住所：_____

メールアドレス：_____

電話番号：_____

【画像利用の申請について】

利用希望の画像については、下記にチェック（レ）して申請してください。

画像0 ☐ 展覧会メインビジュアル

画像1 ☐ 舟越保武 無題[画稿 萩原朔太郎]（世田谷文学館蔵）

画像2 ☐ 朔太郎肖像（大正13年頃 写真提供：前橋文学館）

画像3 ☐ 朔太郎肖像（世田谷区代田の家の庭にて）

画像4 ☐ 朔太郎肖像（昭和15年）

画像5 ☐ 第一詩集『月に吠える』（1917年 世田谷文学館蔵）

画像6 ☐ 「地面の底の病気の顔」原稿（前橋文学館蔵）

画像7 ☐ 「竹」原稿（前橋文学館蔵）

画像8 ☐ 萩原栄次あて自筆水彩絵はがき（1905年8月）

画像9 ☐ 朔太郎作曲「機織る乙女」の自筆楽譜（前橋文学館蔵）

画像10 ☐ 朔太郎が自らデザインした椅子（前橋文学館蔵）

画像11 ☐ 松本大洋《東京の青猫》（2021年）

画像12 ☐ 金井田英津子《猫町》（1997年）

画像13 ☐ 舟越保武《萩原朔太郎像》（1955年 世田谷文学館蔵）

画像14 ☐ 清家雪子『月に吠えらんねえ』（2013～2019年 講談社刊）

画像15 ☐ TOLTA（ヴァーバル・アート・ユニット）《月が出ているから犬が吠える》（2022年 撮影：浅川敏）

画像16 ☐ ムットーニ《風船乗りの夢》（2020年 前橋文学館蔵）

画像17 ☐ 会場イメージ 一冊の本を巡るような会場（会場設計：DO.DO.）

下記画像は要クレジット **撮影：浅川敏**

会場風景 1 ☐、2 ☐、3 ☐、4 ☐、5 ☐、6 ☐、7 ☐、8 ☐、9 ☐、10 ☐、11 ☐、12 ☐、13 ☐

*コピーガードができない場合は、メインビジュアルをご利用ください。